

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：11201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2022

課題番号：19K02878

研究課題名(和文) 学習者の視点から探る世界史学習の内発的動機づけ—国際的志向性の観点から

研究課題名(英文) Intrinsic Motivation of World History Learning from Learners Viewpoints: From the Perspective of International Posture

研究代表者

安井 もゆる (Yasui, Moyuru)

岩手大学・教育学部・教授

研究者番号：70241502

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、全国の学生に対する質問紙および聞き取り調査を通じ、学習者の世界史(外国史)への学習意欲を何が促進/阻害するのか、その内面的・質的要因を探ろうとしたものである。調査の結果、各人は、それぞれの家庭・学校・社会環境の中で、テレビ番組・ゲーム・アニメ、スポーツ、留学、友人や教師とのコミュニケーションなど、さまざまな経路を通じ外国の事物・知識に触れながら、外国への関心を掻き立てられたり、そうでなかったりするのであり、そうした個々のライフヒストリーから生じる国際的志向性が、彼らの世界史学習への取り組みを大きく左右することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の若者がどのようにして世界史(外国史)に興味を持つ/失うのか、その内発的動機の解明はこれまで十分行われてこなかった。各人のライフヒストリー全体を通じて生じる国際的志向性が、そこに大きな影響を及ぼしているとする本研究の成果は、若者のいわゆる「世界史離れ」が進む中、世界史教育を立て直していく上で有益な知見となると思われる。

研究成果の概要(英文)： This study aimed at exploring internal and qualitative factors that enhance or prohibit learners' motivation for world history learning through questionnaire and interviews. The results show that the respondents' interest in foreign countries was affected by various factors such as TV programmes, video games, cartoon film, sports, study overseas, and communication with friends and teachers. It has become clear that international posture that is created from individual life stories influence greatly on the efforts for world history learning.

研究分野：西洋史学、世界史教育

キーワード：世界史学習 内発的動機づけ 国際的志向性

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 若者のいわゆる「世界史離れ」の問題は、高校教育のみならず大学教育・歴史学研究が向き合うべき課題となっている。そうした中、歴史教育の分野では、歴史的思考力を高めるための教材開発や授業実践が盛んに行われる一方、学習者の能動性・動機づけに注目した研究は少ない。

(2) 外国語学習では、学習者の動機づけの強さと学習の効果との連動性が実証されている。そこにおいて近年注目されているのが、国際的志向性という考え方であり、この概念は世界史学習にも適用しうるものであると考えられる。

2. 研究の目的

(1) 第二言語習得の分野において得られた知見を歴史教育の分野に生かし、とりわけ国際的志向性の観点に着目しつつ、世界史(外国史)学習において学習者の内発的動機を促進する諸要因を探る。

(2) 学習者の内発的動機づけの見地から望まれる世界史授業のあり方について、高校現場での優れた授業実践の事例を参考にしつつ、考察する。

3. 研究の方法

(1) 学習者のライフヒストリーにおいて、世界史への学習意欲を促進あるいは阻害している内面的/質的要因を探るため、研究分担者が所属する各大学において、まず学生に対する広範な質問紙調査を行い、さらに回答者の中から選ばれた者に対し聞き取り調査(質的調査)を行う。

(2) 学生が印象に残っていると述べる授業の実施者(高校教員)に対し聞き取りを行い、その授業理念・信条、授業実践の内容を調査する。

(3) 上記の調査結果を照らし合わせ分析することを通じ、具体的にどのような教育方法であれば世界史学習の動機づけが強化されるのか/されないのか、どのような局面から世界史への興味関心を育てていくことができるのか、解明する。

4. 研究成果

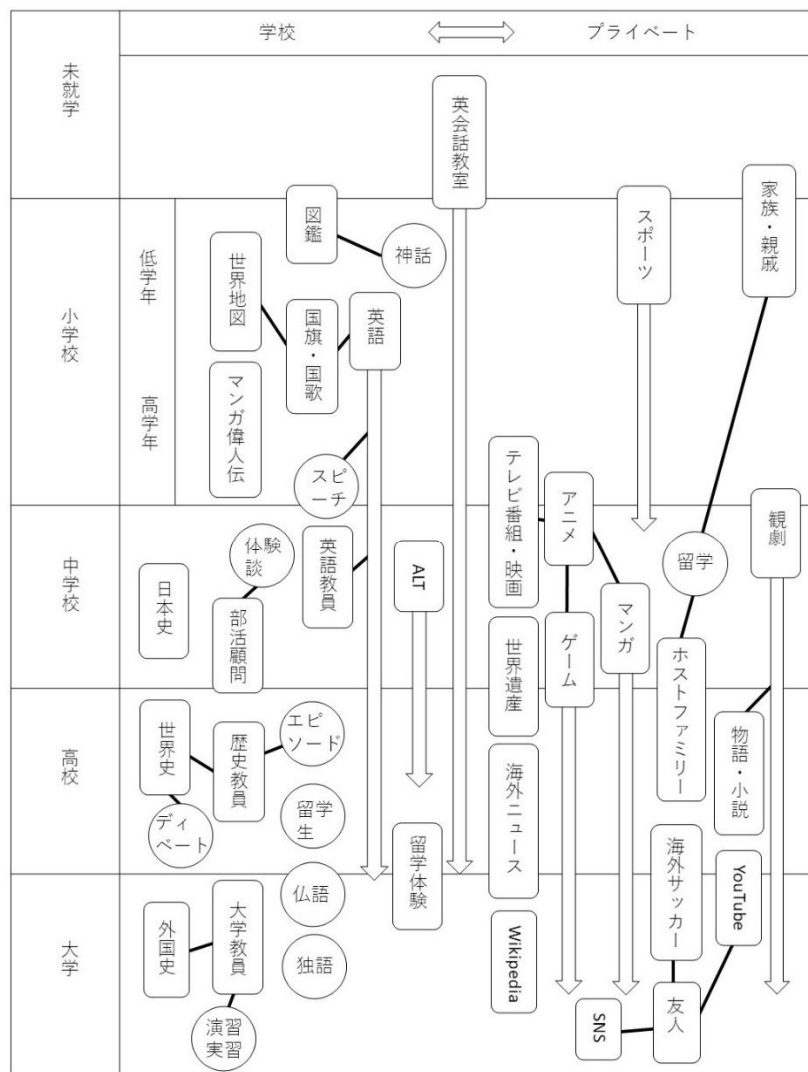
(1) 北海道・東北・東京・九州の計9つの大学・高等専門学校(約1000人)を対象に、外国史への興味の有無、興味を抱いたきっかけ(興味を持てなかった理由)などについて質問紙調査を行い、さらに回答者の中から約20人を選んで面接調査を行った。当初の予定では、その後さらに高校教員への調査を実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症流行の影響により、断念せざるをえなかった。

(2) 学生が外国史に興味を持つきっかけとして重要なのは、まずテレビ番組やマンガ・アニメ、ゲームなどの間接的体験、ついで高校世界史の授業、語学学習の順番であり(岩手県の大学生の場合について、下表参照)。逆に外国史に興味を持たない理由として、そもそも外国に興味を持たないという場合が多い。学生は、生まれて以来、それぞれが置かれた家庭・学校・社会環境の中で、さまざまな仕方・程度において外国の事物・知識に触れながら、外国への関心を掻き立てられたり、そうでなかったりするのであり、そうした個々のライフヒストリーから生じる国際的志向性が、彼らの世界史学習への取り組みを大きく左右するものだといえる。

	盛岡大学	岩手大学	盛岡短期大学部
映画	47	21	25
高校の世界史授業	40	20	24
テレビ番組	34	43	19
マンガ・アニメ	32	21	40
ゲーム	32	6	9
小説	20	4	10
海外旅行・研修・留学	18	18	17
外国語学習	15	10	13
その他	8	4	2
計	246	147	159

(3) 学生に対する聞き取り調査をライフストーリーの手法により分析した結果、質問紙調査に示された世界史学習の動機づけの諸因子が個々人のレベルでどのように影響をあたえたか、その具体相が明らかとなった。すなわち、各人が世界史学習への関心を喚起される背景には、世

世界史の授業そのものにとどまらず、就学前の英会話教室に始まり、テレビ番組・ゲーム・アニメ・スポーツ・留学、さらに友人や教師とのコミュニケーション、外国語学習等に至る、もろもろの因子が複雑に絡み合っていた（下図参照）。



(4) 若者が世界史に関心を持つ（持たない）過程は各人各様であるといえるが、しかしそうした中で、高校での世界史学習は上記のさまざまな諸因子をつなぎ合わせ、世界史への関心へと誘導する重要な契機となることが明らかとなった。

(5) 世界史（外国史）教育の現場では、いかに学習者を引き付け、興味を持たせるか、多くの実践的試みがなされているが、一方で、さまざまなバックグラウンドを有する学習者各人が実際どのように世界史への関心を持つ（失う）に至るかについての考察は欠けていた。本研究はこの欠落を補い、学習者の内発的動機づけの観点からより効果的な授業を構築する上で、基礎的な知見を提供するものといえる。この知見をどのように実践に生かしていくかが、今後の課題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計6件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 小川知幸、畑奈保美、安井萌、小川春美、吉原秋、鈴木道也、津田拓郎、田村理恵、出村伸、池野健	4. 巻 24
2. 論文標題 大学生のライフストーリーから探る外国史学習の動機づけー擬人化から歴史へー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集	6. 最初と最後の頁 41-50
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 鈴木道也、安井萌、小川春美、吉原秋、小川知幸、畑奈保美、津田拓郎、田村理恵、出村伸、池野健	4. 巻 24
2. 論文標題 大学における世界史教育の現状と課題(3)ー歴史学系のオンライン授業に関するアンケート調査の結果からー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集	6. 最初と最後の頁 51-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川知幸、安井萌、小川春美、吉原秋、鈴木道也、津田拓郎、田村理恵、畑奈保美、出村伸、池野健	4. 巻 23
2. 論文標題 大学生のライフストーリーから探る外国史学習の動機づけ	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 津田拓郎、コンラート・フレンツェル	4. 巻 48
2. 論文標題 日独の中等教育課程における歴史教育の現状と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史流	6. 最初と最後の頁 59-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 津田拓郎	4. 巻 308
2. 論文標題 8・9世紀アフロ西ユーラシア世界におけるカロリング朝フランク王国	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 史学研究	6. 最初と最後の頁 1-38
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小川知幸、安井萌、小川春美、吉原秋、鈴木道也、津田拓郎、田村理恵、畑奈保美、出村伸、池野健	4. 巻 22
2. 論文標題 外国史学習の動機づけに関するアンケート調査と分析ー岩手県を中心にー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 岩手県立大学盛岡短期大学部研究論集	6. 最初と最後の頁 57-63
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 津田拓郎
2. 発表標題 問題提起：若者の西洋中世史離れー通俗的中世史像と中等教育における西洋前近代の取り組みー
3. 学会等名 西洋中世史学会第12回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

オンラインシンポジウム「人はなぜ、いつどこで歴史を学ぼうと思いはじめたのか」(2023年3月18日)を開催。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小川 春美 (Ogawa Harumi) (30598561)	岩手大学・教育学部・准教授 (11201)	
研究分担者	吉原 秋 (Yoshihara Aki) (00269242)	岩手県立大学盛岡短期大学部・その他部局等・准教授 (41201)	
研究分担者	鈴木 道也 (Suzuki Michiya) (50292636)	東洋大学・文学部・教授 (32663)	
研究分担者	小川 知幸 (Ogawa Tomoyuki) (70312519)	東北大学・学術資源研究公開センター・助教 (11301)	
研究分担者	畑 奈保美 (Hata Naomi) (60302064)	東洋大学・人間科学総合研究所・客員研究員 (32663)	
研究分担者	津田 拓郎 (Tsuda Takuro) (70568469)	北海道教育大学・教育学部・准教授 (10102)	
研究分担者	田村 理恵 (Tamura Rie) (40390554)	都城工業高等専門学校・一般科目文科・准教授 (57601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------